

くすり一口メモ

治験が進められる抗がん剤3種について

今回初めて保険診療と併用できる、国内では保険未承認の3つの抗がん剤が示されました。厚生労働省はこの3剤の治験を各メーカーに促し、また治験の枠組みに入らない場合でも、この3剤に限っては保険診療と併用が可能となり、その場合の患者負担は薬剤費のみとなるそうです。それらの抗がん剤について紹介します。

サリドマイド	適応症：多発性骨髄腫	申請メーカー：藤本製薬
<p>1950年代後半に催眠鎮静薬としてドイツで開発され販売されましたが、四肢奇形などの重度の先天異常や胎児の死亡を引き起こし、日本においてもおよそ1,000名の被害者（うち認定被害者309名）を出し、発売10年を経ずして市場から完全に姿を消していました。ところがその後も薬効の研究は進められ、1998年米国においてハンセン病に伴う結節性紅斑を適応症として使用が承認されました。今回米国でも1998年に臨床試験薬として承認を受けた多発性骨髄腫の治療薬として、国内での治験が行われることになりました。既に、個人輸入によりサリドマイドの多発性骨髄腫患者に対する投与は国内でも行われています。その輸入量は、2002年で44万錠、2003年には53万錠に上っています（厚生労働省医薬食品局集計）。</p>		
オキサリプラチン	適応症：結腸直腸癌	申請メーカー：ヤクルト
<p>オキサリプラチンは、白金含有抗癌剤で、腎毒性はほとんど示さず、抗腫瘍効果はcisplatinとほぼ同等といわれています。海外では既に50カ国以上で発売されており、転移性結腸直腸癌に対し、オキサリプラチンと5-FU/LVの併用投与が第1，第2選択薬となっています。アメリカでも2004年1月に進行結腸直腸癌の治癒に対し上記の併用療法が承認されています。この化合物は、1980年喜谷義徳（名古屋市立大学名誉教授）らによって見出されたものです</p>		
ペメトレキセド	適応症：悪性胸膜中皮腫	申請メーカー：日本イーライリリー
<p>葉酸拮抗剤。その80%がアスベストが原因となっている中皮腫は、日本でも増加傾向にあります。この中皮腫の治療薬として2004年2月に米国で初めて承認を受けたのが、このペメトレキセド（アムリタ：米国での商品名）です。EUにおいても、2004年9月にシスプラチンとの併用で悪性中皮腫に、また単剤で非小細胞肺癌に適応が通っています。</p>		

参考文献 ファルマシア vol.39. No4. 2003
 明日の新薬 2005年1月
 日本経済新聞 1月25日付
 （鹿児島市医師会病院薬剤部 服部安希子）